

熊本工業高等学校(定時制) 令和4年度(2022年度)学校評価表

1 学校教育目標
◇教育目標 三綱領のもと、豊かな人間性や礼節を身につけ、心身共に健康で、自主自立の精神を持ち優れた工業技術を習得し、地元産業界で活躍できる、次代を担う産業人材を育成する。

2 本年度の重点目標
◇重点目標 1 生徒理解 ～生徒の多様な適性等に応じた、個を大切にしたいきめ細かい指導～ 2 学力の向上 ～基礎学力向上の取組の実施、授業改善～ 3 人間力の向上 ～基本的生活習慣の確立、マナーやモラルの向上～ 4 自己の伸長 ～特別活動、ボランティア活動、部活動～ 5 進路目標実現 ～キャリア教育の充実と行きたい進路目標の実現～
◇2つの最重点目標 【生徒理解】～生徒の多様な適性等に応じた、個を大切にしたいきめ細かい指導～ ★指標 職員「生徒の悩み等に親身になって、適切な支援を行っている」前年比+5% 生徒「一人一人(個人)を大切にしたい教育が行われている」前年比+5% 【学力の向上】～基礎学力向上、授業改善～ ★指標 職員「指導方法を工夫し、分かりやすい授業づくりに努める」97.1→100% 生徒「授業は、内容や教え方に工夫があり、とても分かり易い」前年比+10%

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	本年度の重点目標の具現化	最重点目標の達成	生徒一人一人を大切にしたい教育について、昨年度比5%以上向上。また、分かりやすい授業について、昨年度比10%以上向上	○授業や特別活動等をとおして積極的に生徒に関わり、目標達成に努める。	B	生徒一人一人を大切にしたい教育について肯定評価が81.5%(昨年79.8%)と昨年比+1.7%となった。分かりやすい授業について肯定評価が合計91.9%(昨年97.1%)昨年比-5.3%であり昨年度より下回った。約2割の生徒との向き合い方の工夫や授業改善が必要である。
	定時制課程の活性化	中学校の生徒・教師及び保護者等における本校定時制の教育活動に関する認知度・理解度の向上	「生徒の活躍や特色ある取組」を随時分かりやすく発信し、広報活動を推進する。	○生徒募集委員会を中心にして、学校HP等での情報発信の充実を図る。	B	学校パンフレットを作成し、学校HPで中学生向けに情報発信を行うなど、充実した広報活動ができた。また、本校生徒のHP利用も大きく伸びた。
			定時制の教育内容等の周知	○中学校訪問・学校見学会で本校の定時制とミスマッチの無いように事前の説明を確実に行う。	A	中学校訪問や学校見学会において、本校の教育内容や進路、校則等に関する説明を行うことで、本校に対する理解を深めてもらうことができた。

	特別支援教育の推進	UDの視点を持った全ての生徒が「分かる授業」の実践、及び対象生徒への就業支援の推進	校内の支援体制（組織化）を充実させ、全職員が日常の実践をとおして、支援や指導力の向上に努め、対象生徒だけでなく生徒の学習・就労支援を充実させる。また、必要に応じてSC、SSW及び外部機関との連携を推進する。	○計画的に対象生徒を把握し、日常的に情報を共有して支援を行う。年3回以上の校内研修を実施するとともに、日常的な実践に努める。また、校外研修等にも積極的に参加する。	B	年3回行う「生徒理解」職員研修だけでなく、個人的に担任等から情報を得て、生徒の把握に努めた。また、SSWや外部機関とも連携を試みている。講演会については、外部講師による職員研修1回と生徒講演会1回を実施することができ、職員の資質・指導力向上に役立った。しかし、外部機関等を含む組織化作り（システム作り）には更なる改善が必要である。
	業務改善の工夫	時間の有効活用	会議等に要する時間の短縮を図るため、職員会議は原則として年度始めと年度末の開催とする。始礼の回数削減。	○運営委員会で協議した内容については毎日の始礼の中で職員に周知することを徹底する。 ○始礼を週2回実施。	A	職員会議と運営委員会の回数を減らし、始礼後の時間を活用した。更には、事前の資料配布等で会議の時間短縮を行った。
	働き方改革の推進	時間外勤務の削減と年休取得の推進	全職員の時間外勤務の月平均時間を12時間以下(20%off)に抑え、年間年休取得平均日数の15日以上を目指す。	○勤務時刻終了後、すぐに退勤できるような職場環境づくりと、気軽に年休を利用できるように意識付けを図る。 ○学期に年休5日以上取得を促す。	A	時間外勤務は毎月目標を達成し、昨年度より大きく減少している。更に年休取得しやすい雰囲気づくりで、年休取得も目標を達成しつつある。
学力向上	授業内容の工夫及び充実	分かる授業の実践	生徒が達成感を感じられる授業づくりに努め、授業評価で「とても分かりやすい」と答える生徒の割合65%以上を目指す。また、分かり易い授業づくりに努めていると答える職員の割合100%を目指す。	○1年全クラスで「TT授業」を実施する。公開授業や授業評価アンケートを実施し、授業者の細やかな授業準備や振り返りを推進する。また、国語科、機械科、電気科で研究授業を実施する。	B	1年全クラスでTT授業を展開し、公開授業や年2回の授業評価アンケートも実施することができた。授業評価アンケートでは、授業が「とても分かりやすい」と答えた生徒が64%に達し、ほぼ目標をクリアすることができた。しかし、分かりやすい授業づくりに努めていると答えた職員は92%で、目標には届かなかった。
	確かな学力を身に付ける	学力の定着	欠点による単位未修得生徒数ゼロを目指す。	○少人数授業や習熟度別授業、TT授業、ICT機器の利点を最大限活かし、教科・科目の単位修得のために必要な基礎学力を定着させる。	B	多くの教科・科目において、それぞれが基礎学力向上のための取り組みを行っていた。今後の考査に向けて生徒の学力向上を図っていくことで、単位未修得生徒ゼロを達成する。

	各種資格取得による学習意欲の高揚	ジュニアマイスターへの挑戦	ジュニアマイスター取得者の育成	○ジュニアマイスター取得に挑戦することで、生徒の学習意欲の向上を図る。全ての教科・科目で基礎・基本的な学力の定着を意識した学習指導を計画的に行う。	A	数多くの資格に挑戦し、資格取得ポイント取得した。その結果、今年度は、シルバー機械科1人、電気科1人、ブロンズに電気科3人がジュニアマイスターの資格を取得した。
キャリア教育(進路指導)	生徒の進路希望を達成する	進路目標の達成状況	生徒の希望する進路決定率100%	○生徒の進路希望を基に、しごとコーディネータにも協力を依頼し進路相談を充実させる。行きたい進路目標の実現につなげる。	B	学校紹介による就職内定率は96%で目標にはやや届かなかった。公務員については基礎学力と社会経験不足が原因と思われる不調であった。進学については専門学校等に5人が合格している。
				○進路指導部・卒業年次学年・各科が連携・情報共有し、面接・筆記・作文指導など、就職・進学試験対策学習の実施と充実を図る。	A	学年・各科との情報共有や、企業就職・公務員・進学別の担当者による受験指導を丁寧に行うことができた。また、公務員については、全日制との連携関係も進めることができた。
	キャリア教育の推進	在学中の就業体験率向上	交流体験学習の全員参加。就業調査での就業率70%以上	○生徒の就業意識を早期より高めさせ、企業からの就業依頼があれば積極的に生徒へ紹介する。個別の就業相談等を充実させる。	A	インターンシップの参加率は、前年度に続き100%であった。また、本年度の生徒全体の就業率は78%と目標を上回った。アルバイトの紹介についても依頼件数は少ないが引き続き紹介していく。
	卒業生の定着率向上	卒業生の早期離職等の防止	早期離職者をゼロにする。	○卒業生の就業先へ就業状況の調査を実施する。卒業生のフォローを行い離職防止につなげる。1年次から卒業後を見通したキャリア教育を計画的に実践する。	A	就業状況調査や来校企業からの就業状況報告、及び担任からのフォロー等を通じて、就職先への定着を図っている。昨年度の離職者はゼロであった。今年度から、各学年において進路セミナー等を実施している。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	5S活動(整理、整頓、清掃、清潔、躰)の徹底	当たり前に気持ちの良い挨拶ができる。	○校内で、教師と生徒が互いにする挨拶できる関係づくりをする。	B	教師側からの挨拶が常に必要。自ら挨拶できる生徒は問題ないが、その他は粘り強い指導が必要。
			全ての生徒が授業開始前には着席し、授業の準備をする。	○「落ち着いて学習できる環境づくり」のために、教師が時間前に教室に入り準備する。	A	教師が時間前に入室して授業準備や生徒を待つ体制が整っている。
			身なりで注意される生徒を減少させ、自ら整える心を育てる。	○授業時をはじめ教師が気付いたその場で生徒にしっかりと注意し、改善を促す。	B	ほとんどの生徒はしっかりしているが、指導が必要な生徒に対して全職員で注意声掛けをしていくことが求められる。

	規範意識の高揚	2 A 運動（「当たり前のことを当たり前に」、「安全で愛校心を高める環境に」）の推進	交通ルールと交通マナーの遵守を図り、通学方法申請書の提出を6月までに100%を目指す。 社会や学校の規則を遵守させ、特別な指導3件以下を目指す。	○集会や講演会等での交通安全教育の充実や、登下校指導等で生徒への声かけの徹底より、安全意識を高める。 ○担任、学年及び各科と連携し定期的に個人面談、校内巡回・巡視等を徹底する。	A B	交通担当の係を中心に通学手段の申請の取り纏めを徹底できたことで、交通関係の意識向上へ結びついた。 校則を遵守し、安心安全で落ち着いた学校生活を送る事ができた。特別な指導は3件（3名）であった。
人権教育の推進	人権教育推進体制の充実	人権教育の組織的な推進体制づくり	推進委員会の開催により、各学年や各部署と連携して、人権教育LHR等の充実を図る。	○学期毎に定期的な推進委員会を実施し、発達段階や人権課題に対応したLHR指導案を作成する。	B	推進委員会を計画的に実施し、実態調査等に基づき、様々な人権課題と生徒の発達段階の整合性に配慮したLHRの内容の精選を図った。
	人権尊重の視点に立った学校づくり	差別を許さない職員の共通意識の向上	校内研修の更なる充実を図るとともに、全職員が年1回以上の校外研修に参加する。	○年間計画に組み込み、計画的に職員研修を実施するとともに、校外研修への積極的な参加を推進する。	B	人権意識の涵養と具体的課題に対応する実践力向上に資する職員研修を目指し、人権に関する適切な情報や知識の共有と校外研修による多様な学習の推進を図った。
	命を大切にす る心を育む指 導	自分と他者 を大切にす る心と態度 の育成	全教育活動をと おして、全教 職員が多角 的・多面的な アプローチを 行う。	○特別支援教育との関連を図り、自他の生命を大切に する心と態度を 育成する。	B	一方的・表面的な生徒理解に留まらず、発達の特性や生活の背景を深く理解し、効果的な支援・指導につながる体制作りを目指す取組を行った。
			講話等のアン ケートや感想 文をとおし て、生徒の意 識の変容を 図る。	○外部講師等による講演を実施し、生命の大切さについて意識の向上を図る。	B	ハンセン病問題への理解を深め、生命の尊厳と共生を基盤とする社会の実現を目指した外部講師による講演を実施した。
いじめの 防止等	いじめの未然防止	いじめ防止取組の充実	年2回以上のいじめ防止推進期間を設定し、啓発に努める。	○6月と11月に心のきずなを深める取組を実施する。職員間で情報共有・連携を推進する。	B	年度当初の生徒への啓発はできた。職員間における人権意識の向上が生徒への教育に結びついていく必要があると思われる。
	いじめの早期発見	担任を中心とした個人面談の実施	年3回の「心のアンケート」を実施し、個人面談を各学期に1回以上実施する。	○生徒指導部がいじめに関するアンケートを実施。結果をもとに担任・SC等の面談を実施する。	A	昨年に続きいじめの事案は0件であった。細かい内容を分析し、そのクラスへの対処指導も行うことができた。引き続き、生徒の様子・変化を見逃さずに全職員であたっていく。

	他者を思いやる心を育む指導	情報モラル教育の推進	SNSの適切な利用方法を全生徒に身に付けさせ、「いじめのない環境づくり」を目指す。	○定期的にいじめ防止対策委員会を実施する。 家庭との連携を重視し、保護者への情報提供を充実させる。	A	7月、12月、2月と年3回のいじめ防止対策委員会を実施した。アンケート内容を分析し、未然防止に努めた。保護者への啓発プリントを配布した。
地域連携 (コミュニティ・スクールなど)	総合型コミュニティ・スクール	総合型コミュニティ・スクールの推進	学校運営協議会の開催	○学校評価計画にある目標や全日制に準拠する事項については、協力体制を図りながら取り組む。	B	防災マニュアル及びシステムなど、全日制に準拠して共有して、それに基づいた各事項について協力体制を築いた。
		災害に適切に対応できる学校運営	・避難訓練の実施 ・防災研修の充実 ・サポートの必要性の把握と対応	○夜間授業に合わせた避難訓練、ICTを活用した防災研修等の実施を図る。 ○心的サポートが必要な生徒を把握し適切な対応を図り、関係部署との連携・協力を図る。	A	10月の防災訓練はコロナ禍で消防署の立会い及び指導助言はなかったが、本校独自の計画で火災対応避難訓練後に消火器操作方法と水消火器を使用した消火訓練を実施した。 3月の地震対応避難訓練は、夜に被災し停電した中で生徒同士が協力して安全な場所に避難する訓練を行う予定で進めている。
	熊定タイムにおける地域連携	自分が学んでいる地域の関連企業との交流を推進	2年次生の「総合的な探究の時間」において地域の関連企業での仕事内容を体験し、日常で体験できない有益な交流を目指す。	○生徒の自発的な活動により、各企業との円滑な交流を図るとともに、自らの進路意識を向上させ、発表力の育成を図る。	B	全員が現在学んでいる学科に関連した事業所でのインターンシップに取り組むことができた。そのことで、進路を考えるきっかけとなった。また、発表会において、成果を報告することができた。事業所からの評価もおおむね好評であった。
	ボランティア活動の推進	ボランティア活動の啓発と実践	高校生として社会貢献を考え学ぶ場を設定し、福祉の啓発に努める。	○地域へ向けたボランティアを企画・実践し、貢献できる機会を設ける。	A	地域貢献ボランティアとして、学期毎に清掃活動を実施することができた。参加生徒も多く継続した活動ができている。
工業教育	ものづくり教育	地域との交流・貢献と喜ばれるものづくりの推進	実習や課題研究等で製作した作品を年間1回以上、地域へ寄贈する。	○各科の特徴を活かし、ものづくりの年間計画・目標を設定し、全職員で積極的に協力する。	A	機械科、建築科の実習で製作した長椅子5台を熊本市健軍商店街振興組合に寄贈した。
		実習を通しての知識・技術の習得	専門技能・技術を確実に習得する。ものづくりへの楽しさや興味関心を高める。	○4年間で正しい機械操作や取扱い方を身に習得する。	A	機械器具に触れる前に、オリエンテーションを確実にに行い、正しい操作方法、取り扱い方を理解させた上で実習を行う。

		安全教育の実践	事故や怪我0(ゼロ)を目指す。	○実習前の安全確認の徹底を行う。	A	正しい服装をさせ、必要に応じて保護具を装着させる。作業前には、必ず注意喚起をする。
	各種資格検定試験への更なる挑戦	各種資格検定への積極的な挑戦	1人年1回以上の資格や検定試験の受検を推奨し、全ての資格試験合格率50%以上を目指す。	○年間指導計画に基づき、工業各科や担任から検定及び資格の受験を促すとともに、課外の充実を図る。 ○検定資料の準備や指導方法を工夫し、効率的に取り組む。 ○資格を活かした進路選択も推奨する。	B	1年次では、工業各科で計算技術検定を全員受検した。数多くの資格に挑戦し、多くの資格を取得した。全ての資格での目標は達成できなかったが、基礎学力向上や課外授業での対策が合格につながっている。
	ものづくりに関する技能・技術の向上と安全教育	5S活動と安全教育	事故や怪我の無い学習環境の中でのものづくりをめざす。	○科集会等を通して、規範意識の向上を図る。 ○安全教育の実践と5S活動に取り組む。	A	正しい服装をさせ、必要に応じて保護具を装着させる。作業前には、必ず注意喚起をする。実習において安全を最優先させ、事故や怪我の防止に努めながら、技術の向上を図っている。
部活動	部活動の充実による学校の活性化	生徒の人間性の育成	集団行動をとおした責任感や協調性、心身の健全な成長を目指す。	○目標に向かって取り組む課程において「課題」を発見し、解決するための方法や機会を経験する。	B	定通総体にむけての継続した活動や文化大会のポスターの製作など、各部の目標に向かって熱心に活動することができた。
		魅力ある部活動の実現	全国大会出場や活発な部活動運営など、魅力を発信できる部活動づくりを目指す。	○計画的な部活動運営を推奨し、持続させるために適切な運営のための体制整備を行う。	B	全国大会へ2つの部活動から出場することができた。県大会では上位入賞するなど活躍した。文化系部活の魅力を文化祭を通じて発信することができた。
保健安全管理	学校保健の充実	心身共に健康な生徒の育成	健康診断を通じて、自らの健康チェックを行うとともに、生涯にわたり心身の健康を意識し、行動変容ができる生徒に育成する。	○毎月実施される科別集会で、保体部からの情報提供を行うことで、生徒への啓発に取り組む。心の健康については、振り返りシートの結果も活用しながらカウンセラーによる面接を実施していく。	A	毎月の科別集会での保健便りによる啓発運動は、生徒への健康の動機付けになった。また、教育相談も充実し、カウンセラーとの連携により、生徒への細かい指導ができた。

			給食の時間を通して、食の大切さに関する情報提供を行い、喫食率60%以上を目指す。	○給食室を衛生的に保ち、コロナ感染防止対策をしっかりと行う。掲示物については計画的に掲示し、生徒が学べる環境を作る。	B	調理室の衛生面は十分に保たれていた。給食室の掲示等も毎月交換を行い、啓発等に役立った。また、コロナ対策も全職員で実施できた。喫食率が、60%に満たなかった。
学校安全の充実	環境教育（学校ISO）の推進	生徒の環境教育に対する意識向上を図り、「5S活動」、「2A運動」を推進する。		○日々、定時制が主に使用する場所の清掃を徹底する。始業式や終業式前に全校清掃を設定する。学校版環境ISOの周知徹底と実践を行う。	B	「5S活動・2A運動」の取組は、日頃から当たり前のことを当たり前にできる生徒が多くなった。清掃活動もゴミの分別や節水などの取組も十分にできていた。
	学校生活での危機管理（自然災害等を含む）の徹底	緊急時の対応方法と連絡体制の徹底を図り、主体的に行動できる態度を育成する。		○緊急時には熊定メール、学校HPを活用し連絡や学校の対応を生徒・保護者に周知する。	B	緊急時の生徒・保護者への連絡などは「熊定安心メール」で配信をしているために携帯などにアプリの登録をお願いしている。 学校HPでも連絡や学校対応事項などの掲載と更新をして周知を行った。

4 学校関係者評価

- ・学校評価アンケートにおいて、保護者アンケートでは、肯定評価が8割以上であった。保護者の項目では、『子どもが定時制で学ぶことに満足しており、定時制に入学して良かった。』98.1%(前年比+4.1%)『子供は、落ち着いた雰囲気です学校生活を送っている』94.2%(前年比+4.2%)『学校の様々な活動を理解しており、諸活動に協力したいと思う。』84.6%(前年比+10.6%)であり、本校教育活動への高い評価と期待を頂いていることが分かった。
- ・生徒アンケートで肯定評価が7割以上であった。生徒の項目では、『1年次から計画的に資格取得など進路実現のための指導が行われている。』89.1%(前年比+4.9%)『卒業後の進路目標を持ち、目標達成のため努力している。』68.5%(前年比-2.3%)となり、学ぶ環境が整っているが、自分自身の目標への努力が足りない事が分かった。
- ・学校運営協議会では、定時制の資格取得への取組に対し、電気工事士などの資格を通して就職へ繋いでいる点や、3修制で卒業していく意欲ある生徒がいることに評価を頂いた。

5 総合評価

- ・今年度の評価は、全体でA評価が18個(昨年度9個)、B評価が22個(〃27個)、C評価が0個(〃2個)であった。昨年度よりA評価の数が増え、全体的に良くなっている。昨年度まではコロナ禍により当初の計画が中止や縮小となったことが影響していたが、今年度は、行事等が再開されながら生徒の活躍の場が増えた。その中で、地域貢献ボランティアとして生徒会主体の清掃活動を実施しており生徒主体性も育まれている。また、ものづくり教育を通して地元商店街へのベンチ寄贈をとおして人づくり教育へと繋がっている。
- ・本校定時制の生徒たちの学校生活は年々落ち着いてきている。真面目に授業を受ける生徒が増えてきており、その良い雰囲気が学校全体を包んでいる。
- ・生徒は、部活動に積極的に参加し定時制通信制体育大会では全国大会出場の部活動があった。また、放課後の限られた時間を利用して課外に参加し、専門の資格取得に挑戦する生徒もおり高い合格率を出している。目標に向かって直向きに努力することができる生徒が増えてきた。
- ・定時制の活性化では、学校見学会で昨年度より見学者が増えており、中学校訪問やホームページでの情報発信を行うことができおり、入学志願者数増へと繋がった。
- ・生徒理解では、特別支援教育の推進を図り、計画的に生徒理解研修を実施しており、職員アンケートの「生徒の悩み等に親身になって、適切な支援を行っている」の質問に対して、肯定意見が100%であり職員一人一人が意識をして指導をしている。生徒アンケートの「一人一人(個人)を大切にされた教育が行われている」は81.5%であり、今後も生徒の多様な適性等に応じた個を大切にされたきめ細かい指導を継続して行きたい。
- ・学習面では、「授業は内容や教え方に工夫があり、とても分かり易いと思う」の質問に対して、生徒からの回答での肯定意見が81.4%であり、職員アンケートでは、「分かり易い授業づくりに務めている」の質問に対し91.9%であり、CとD評価があり、授業改善が必要である。

6 次年度への課題・改善方策

①自己の未来を切り拓く力の育成

自分の能力に自信を持てず自己肯定感が低いことから、自身の将来に具体的な展望を持つことができない生徒が多い。それに対して、確かな学力や相手の意見を尊重し仲間と共に課題解決をしていく力、地域や社会に貢献することで自己肯定感を高めることが重要であると考え。エンパワーメントハイスクール事業を通して、基礎学力の向上と進路意識の高揚を図りキャリア教育を行い進路目標の実現をする。

②生徒理解

本校定時制には、生徒や家庭環境など何らかの課題を抱えている者が多く在籍しており、職員が丁寧に対応している。支援が困難な場合にはスクールカウンセラーや外部機関との連携も図っている。今後も様々な課題を抱えた生徒に対し、教職員の資質向上と支援体制が必要であり、さらなる充実を図り、個に応じたきめ細かい指導をする。

③職員の資質向上と授業改善

基礎学力が定着していない生徒に対して習熟度別授業やTT授業の対応をしているが充分ではない。職員研修と研究授業の機会を増やし、分かり易い授業に向けた授業改善を行う。また、chromebookなどのICT機器の利点を最大限活用した授業の工夫をする。より効果的な学びの環境をつくり、生徒の力を最大限に引き出す教育に取り組む。